

「ささえる力 Power」は、情熱と誇りをもって働く「人」にスポットをあて水資源機構の仕事を紹介するコーナーです。

# 地道な努力

～水を送り続けるのが私の仕事～

茨城県西南部は東京都心にほど近い位置にあり、優良農業地域であるとともに東京のベッドタウンであり、工業生産も活発な地域だ。しかし、降水量は全国平均よりも少なく河川の水量も不安定で、たびたび水不足に見舞われる地域でもあった。この水不足を解消するのが“霞ヶ浦用水”で、全国でも2番目に大きな湖である霞ヶ浦の水をポンプでくみ上げ、パイプラインと筑波山中のトンネルにより、地域の農業用水や都市用水として水の安定供給を行っている。

そんな用水施設を管理する霞ヶ浦用水管理所の現場の責任者とし活躍するのは、女性管理職の土田だ。仕事に対する想いなどを聞くとともに、点検作業の現場にも同行した。



## Profile

霞ヶ浦用水管理所 所長代理

**土田 百合子** *Yuriko Tsuchida*

平成3年4月、土木職として水資源開発公団（現水資源機構）に入社。最初の配属先である筑後川下流用水建設所をはじめ、全国各地の事業所で水路の調査・設計や工事監督、施設の維持管理業務などに従事。平成26年10月より現職。

## 管理職として

霞ヶ浦用水管理所は管理職3人を含め職員総勢11人、水資源機構の事務所では最も少人数の部類に入る事務所だ。そんな事務所の技術職を束ねる女性管理職の土田に事務所の特徴を聞いた。「ここでは53kmにおよぶ水路の他に8台のポンプ設備、それらポンプを動かすための電気設備を管理しています。これだけの施設を限られた人数で管理しているため、常に誰かが現場に出ているような状況です。」職員全員が集まっての打合せがなかなか出来ない状況の中、管理職として仕事の割り振りや職員同士の情報共有を図るため工夫していることがあるという。「施設の巡視や見学対応、定期的な調査などは、事務職も含め職員全員が当番制で行い、負担の分散や各職員のスキルアップを図っています。また、現場での点検や作業、訓練等を行う場合には、可能な限り写真を残し職員同士で情報を共有できるよう取り組んでいます。」



職員から報告されてくる巡視や点検の結果の確認も管理職である土田の仕事だ。「施設の管理ではとにかく現場

が大切です。報告されてきたデータは、細かくチェックするよう心がけています。」水の安定供給のため、妥協はしない。

## くわばらくわばら

ところで、施設の管理を行う上で、困ったことは無いのだろうか？「夏になると雷には悩まされます。この辺りでは、毎日のように雷注意報が発令されるんです。」毎年、平均2回ほど落雷によって停電が発生し、ポンプが急停止するという。そのため、雷雲がポンプ場の一定範囲に近づくと休日や夜間であっても当番の職員が事務所に待機する。「ポンプの停止から概ね2時間以内に復旧させないと水の供給に支障が生じます。特に夏の夕方から夜にかけては、雷が来ないことを祈っています。」雷に限らず不測の事態に備え、週末は管理職1人と担当職員1人が施設の近傍に待機しているという。管理職は3人しかいないため、土田も3週間に一度は週末の待機を行っていることになる。職員一丸となって、水の安定供給を支えている。

## 24時間 365日

霞ヶ浦用水では計画的に2本並行しているパイプラインの一方を空にし、点検と補修を行っている。取材を行った1月も管内調査を行っていた。「施設の状



霞ヶ浦用水を支える8台のポンプが並ぶ

況を把握し、適切な補修を行うことによって施設を長く、安全に使うことが出来ます。この施設も管理開始から20年を超えており、適切なメンテナンスは欠かせません。」

この日は、作業状況の確認に向かう土田に同行し、マンホールからパイプラインの中に入った。直径2.2mの真っ暗な管の中を、わずかなライトの灯りを頼りに進んでいく。点検では、漏水の原因となる管の沈下や管と管との継ぎ目のずれなどを調査していくという。「点検の結果を基に、劣化予測や補修計画の策定などを行います。パイプラインは国道等の道路の下にあるため、漏水は水の安定供給に支障が出るだけでなく、道路の安全な通行にも支障を及ぼします。」作業状況の確認を行う土田の目は真剣そのものだ。

落雷という自然現象や普段目にする事の出来ない地下のパイプラインと24時間365日向き合う土田はいう。「地域の皆さんが水の苦勞をしなくても済むように、水を送り続けるのが私の仕事です。トラブルを起こさぬよう地道な努力を続けていきます。」



パイプライン内での作業

霞ヶ浦用水管理所は、無事故無災害を続ける優良事業所として平成25年に表彰を受け、現在も継続中です。そんな事業所を支える土田から、土木の道を歩む女性に一言。「土木の職場でも、女性がない方が珍しくなってきました。女性技術者の皆さん、一緒に頑張りましょう！」

